

食育や健康教育について意見を交わした定期懇談会



子どもの健康へ研修を

弘前市と弘前大の まちかつ定期懇 がん講話も拡大

「健康都市弘前」の実現に向け弘前市と弘前大学が立ち上げた「まちかつ弘前3C(キューブシー)」の定期懇談会が26日、市役所で開かれた。市や同大COIネクストの関係者らが「子どもからの食育、健康教育について」をテーマに意見を交わした。

今回で9回目となる懇談会では、市の各担当課が食育、健康教育について今年度実施した主な取り組みを説明。来年度について、市健康増進課が幼児健診における肥満傾向児の保護者への個別栄養指導に加え、半年後のフォローを実施するとした。市教育委員会学務健康課は小学6年と中学2年を対象に行っている中路重之弘大特別顧問作成の「健康物語」を使った授業に関する教職員対象の研修会開催の方針を示した。

意見交換では、市企画課が市内2中学校で実施した「がん講話」について、中路特別顧問が「健康教育においてがん教育が推進されている」とした上で、市が今年度作成した「がん防災マニュアル弘前市版」に触れ「子宮頸がんなどの基本的な知識、市や県のデータを載せるべき」と指摘。同大大学院医学研究科附属健康未来イノベーションセンター長の三上達也教授が「対象を市内の全小中学生とし、さらに保護者が参加できるようにしてほしい」と付け加えた。

桜田宏市長は「学校現場は変わってきている。(定期懇談会で)出た意見に取り組み、一つ一つ結果を出していきたい」とした。

(稲葉智絵)